

坂元 一哉
法学研究科・教授

【研究】

日本国憲法(とくに1条と9条)、サンフランシスコ平和条約、そして日米安保条約(旧安保条約)成立の相互関係を総合的に考察する研究を行っている。日米英三国の外交文書を利用して、これら三つの「法」が成立する際の国際環境、それぞれの政府の構想と提案、それらをめぐる交渉の経緯を分析し、三つの「法」がどのように組み合わさって戦後日本外交の法的基盤を形成したか、その過程を明らかにする。軸となるテーマは、象徴天皇制、戦争放棄、非軍事化、安全保障、領土変更、賠償、戦争責任、戦争犯罪の処罰、戦争の記憶(歴史問題)などである。平成30年度は、日本国際問題研究所が行っている「領土・主権・歴史調査研究支援事業」に関連する研究会で報告を行い(平成30年7月24日)、この事業が主催するシンポジウムに出席してパネリストを務めた(平成30年10月15日)。

【教育】

平成30年度春～夏学期にサバティカル制度を利用したため、3、4回生対象の学部演習(通年)と1回生対象のフレッシュマンセミナー(秋～冬学期)を担当した。

【管理運営】

法学教官会の幹事として、積立金の管理、慶弔などの儀礼、歓送迎会の企画・実行を担当した。

【社会貢献】

防衛大綱の作成にかかわる「安全保障と防衛力に関する懇談会」(内閣官房)において有識者委員を務めた(平成30年8月-12月)。

産経新聞において定期的にコラム(「世界のかたち、日本のかたち」)を執筆した。